

# 中病だより

自衛隊中央病院  
総務部総務課発行  
令和元年度  
第1号

## 令和の時代に



自衛隊中央病院長  
防衛技官 上部 泰秀

令和の時代となって初めての自衛隊中央病院便りになります。今年はずいぶりの長梅雨で、九州地方を中心に大雨となりましたが、その後は大変暑い日が続いています。皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。

この夏、自衛隊中央病院では、五十名を超える前期定期異動がありました。北は真駒内から南は宮古・与那国まで隊員を送り出すと共に、全国から隊員を受け入れました。また、五月末には防衛医科大学校看護学科二期生、七月末には自衛隊中央病院高等看護学院最終期が幹部候補生学校を無事卒業し、かなり遅しくなつて看護業務に復帰しています。今後の活躍が大いに期待されます。診療を

充実させつつ救急医療に積極的に取り組み、自衛隊医療従事者等の臨床研修を受け持ち、その能力向上に努めています。隊員の健康管理においては、関東一円の医務室等との連携を強化し、厳しい任務に当たる隊員の疾病の予防や早期発見・治療に積極的に取り組んでいます。また、地の自治体や医師会との連携を平素から密にし、地域医療への更なる貢献を図っています。

さて、ホルムズ海峡でのタンカー襲撃事案など、我が国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増しつつあり国内においては首都直下地震等の大規模自然災害の発生やアフリカで猛威を振るうエボラウイルス感染症等の新興・再興感染症の患者発生が強く懸念されています。このような中、自衛隊中央病院は、各種事態対処時の態勢整備を粛々と進めています。

先ず、五月二十五日には、首都直下型地震を想定した大量傷者受け入れ訓練を、「一人でも多くの方を助けるため、自衛隊中央病院として何ができるか」をテーマとし、自衛隊統合防災演習（JXR）に接続する形で、自衛隊の部隊や関係医療機関等の参加を得て実施しました。

今回、「多くの被災患者を受け入れられるとともに患者の搬送拠点として活動する」という中央病院の医療支援要領を、訓練の場で示すことにより、防衛省・自衛隊の共通認識にすることができました。

また、コマンド・コントロールを意識し、診療態勢のみならず、勤務員の態勢、医薬品・食料・水・燃料の補給等、業務継続に関する検討も深化させています。九月七日には内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加することになりますが、自治体の対処計画への反映も含め、問題認識を持って取り組みたいところです。

次に、七月六日には、感染症症患者受け入れ訓練を東京都と合同で実施しました。エボラ流行地域より帰国した疑い患者への対応を、東京都との情報伝達に始まり、病院への患者収容や病院からの検査用検体の搬出に至るまでと、東京都福祉保健局、世田谷保健所、東京消防庁といった関係機関と実動で訓練し、連携の強化を図りました。この際、診療態勢の変更に関する作戦会議を開催する等、コマンド・コントロールの向上にも取り組みました。

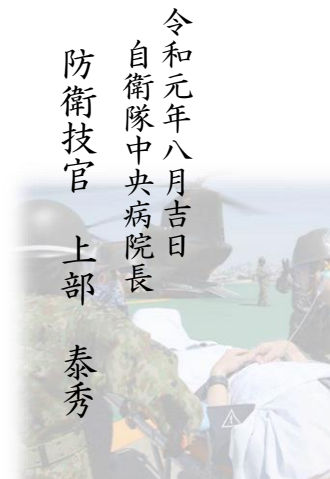
今後は、開催まで一年を切った東京オリンピック・パラリンピックを念頭に、特殊武器によるテロへの対処態勢のみならず、新興・再興感染症への対処態勢も整えたいところです。

最後になりますが、引き続き当院に対するご支援・ご協力をお願いします。挨拶とさせていただきます。

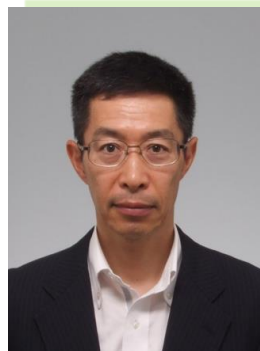
令和元年八月吉日

自衛隊中央病院長

防衛技官 上部 泰秀



## 新着任総務部長



行(一)9  
鈴木 英明  
前職務  
防衛装備庁需品調達官

令和元年七月五日付けで、防衛装備庁調達事業部需品調達官から、自衛隊中央病院総務部長に着任しました。

前職では、被服、燃料の調達に加え、MRIやCTなどの医療機器の調達に携わっておりました。

また、過去には、市ヶ谷において省OAの運営、市ヶ谷地区の機関を統合した次期省OA（現省OA）、防衛省全体を統合した人事給与システムの構築に関わってきました。

これまでの勤務経験から、組織の能力を発揮させるには、職員の一ひとりが伸び伸びと働きやすい環境づくりが重要と考えております。病院という人の命を預かる職場においては、職員の方のストレスは、他の職場とは違った緊張感があると思います。

そのような中で、笑顔が絶えないよう、声を掛け合いながら、前向きに、楽しく勤務できる環境を整えることで、患者さんはもちろんのこと、働くひとりひとりが充実した人生が送れるよう、事務方として精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

### 新着任部長紹介

- 第一歯科部長  
一陸佐 抱井 淑郎  
(前職 中部方面衛生隊長)
- 呼吸器内科部長  
一陸佐 小寺 力  
(前職 陸上幕僚監部衛生部医務保健班長)

### 新着任課長紹介

- 衛生資材部薬剤課長  
二陸佐 関根 敏行  
(前職 補給統制本部衛生部補給計画課長)
- 看護部第二看護課長  
二陸佐 汐田 恵  
(前職 陸上幕僚監部衛生部医務保健班医療管理係)
- 診療技術部栄養課長  
二陸佐 久保見 真史  
(前職 関西補給処装備計画部衛生課長)

### 松村総務部長 離任

令和元年七月五日(木)付で松村総務部長は内部部局大臣官房監査課長として転出されました。転出行事では、松村総務部長が在任期間の思い出を語られ、その気さくな人柄を慕う多くの職員が見送りに参加しました。



↑ 職員を前に離任の辞を述べる松村前総務部長

### 禁煙講話開催



自衛隊中央病院は、令和元年五月三十一日(金)に「世界禁煙デー」に併せて禁煙講話を実施しました。

このイベントはWHO(世界保健機関)が定める五月三十一日に、タバコのもたらす健康被害を知り、禁煙の重要性を理解する機会とすべく開催しています。

禁煙講話では禁煙外来を担当する、上部病院長が「一歩踏み出せない愛煙家の方々へ」と題した講話により喫煙者に対する禁煙を呼びかけを行いました。



↑ 上部病院長による禁煙講話

### 岩屋防衛大臣 初度視察

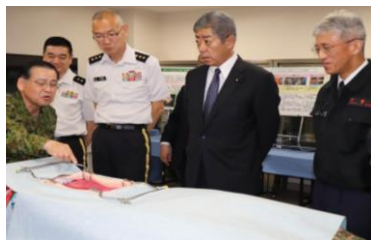
自衛隊中央病院は、令和元年五月十日(火)、岩屋防衛大臣初度視察を受察しました。

大量傷者受入訓練当日のご視察については防衛大臣の日程があわなかったため、視察当日は首都直下型地震を想定した病院指揮所を会議室に開設し、指揮所においては状況報告を実施するとともに、首都直下型地震対処時の病院指揮幕僚活動についてもご視察を頂きました。

また、屋上ヘリポート、第一類感染症病室、診療科救急室等の各施設をご視察の他、研究棟においてはダメージコントロール手術(DCS)訓練用ハイブリッド型シミュレーターをご視察頂き、自衛隊中央病院の任務及び各種事態に対する取り組み等について、ご理解を頂きました。



→ 状況報告を受ける  
岩屋防衛大臣



← ハイブリッド型シミュレーターご視察

### 鈴木政務官による 官邸医療支援チーム 激励受け

自衛隊中央病院官邸医療支援チーム(官邸医療支援官 一等陸佐 大川 英徳)は、令和元年六月二十日(木)官邸医務室において、鈴木政務官の激励を受けました。

官邸医療支援チームは平成十二年から総理官邸医務室において二十四時間態勢で、総理大臣の健康管理及び診療支援を実施しています。鈴木政務官は、総理官邸医務室の施設及び器材等の説明を受け、官邸医療支援官等との懇談により、官邸医療支援チームの日々の活動についてご理解を頂きました。



→ 官邸医療支援チームを激励する鈴木政務官



← 官邸医務室の器材等に関する説明を受ける鈴木政務官

# 令和元年度大量傷者受入訓練

## — 災害拠点となりうる医療機関としての能力向上を目指し —

→ 輸送ヘリ（CH-47）による患者  
航空搬送



自衛隊中央病院は令和元年五月二十五日（土）、令和元年度自衛隊中央病院大量傷者受入訓練を行いました。

当院での大量傷者受入訓練の歴史は古く、昭和四十五年度に第一回訓練が行われ、今日まで継続して実施されています。

本年度は、「災害拠点となりうる医療機関としての能力向上」を目的とし、都心南部を震源とするマグニチュード7.0の首都直下地震を想定して防衛医科大学校、陸上総隊、東部方面隊等の部内関係機関をはじめ、日本赤十字社、東京都、世田谷医師会、日本DMAT等の部外医療機関等の参加をいただき訓練を実施しました。

前段訓練においては「発災直後の初動態勢の確立」を主要演練項目とし、病院の指揮幕僚活動、駐

屯地内での負傷者救護、ライフラインの被害確認、子供受入施設の開設等を演練しました。

後段訓練では「超急性期（発災六〜七十二時間）における、関係機関と連携した医療救護活動」を主要演練項目とし、大量傷者受入チームによる患者の受入・処置のほか、航空搬送支援班による被災地域外病院への患者航空搬送を演練しました。また世田谷医師会の開設する避難所救護所に対する支援を演練する等、中央病院が所在する自治体等との連携要領について具体化を図りました。

本訓練には原田防衛副大臣、山崎統合幕僚長、高田東部方面總監をはじめ約二四〇名のご視察、研修等をいただき、自衛隊中央病院の首都直下地震への取組みについてご理解をいただきました。



↑ 救急室における、重症患者への救急処置

# 令和元年度感染症患者受入訓練

## — 第一種感染症指定医療機関としての対処能力の向上 —

↓ 東京消防庁、世田谷保健所職員からの患者申受け

自衛隊中央病院は令和元年七月六日（土）、令和元年度感染症患者受入訓練を実施しました。

第四回目となる本訓練は、「第一種感染症指定医療機関としての対処能力の向上」を目的とし、東京都感染症予防計画に基づき、感染症流行地域からの帰国者に擬似症状が現れ、当院に受入の要請があったとの想定で実施しました。

訓練は、東京都福祉保健局が計画し中央病院のほか、世田谷保健所、東京消防庁、対特殊武器衛生隊が参加し演練しました。

また今回は一類感染症患者を受入可能



↑ 患者の問診・採血・点滴、ルート確保

な病室を二室使用し、一室は患者受入後、行政検体提出を行った後に勤務員に体調不良者が発生したとの想定、もう一室では受入から三日が経過して患者の容態が悪化し、人工透析の開始準備及びベッドサイドで患者の看護を実施するとの想定で訓練を実施しました。

訓練に参加した医官をはじめとする職員は、全身を覆うスーツ、ガウン、ゴーグル及び二重三重の手袋と、手技や各動作に激しく制限を受ける状況下において、安全かつ迅速な処置を実施していただきました。

訓練終了後には、意見交換会が実施され、訓練部隊、研修に参加された内閣府、厚生労働省、東京都福祉保健局及び感染症指定医療機関等の各参加者から、活発な意見をいただき、今後の業務の教訓を得ることができました。

最後に視察官である上部病院長が訓練を総括し、訓練は終了しました。

当院は引き続き、訓練を通じて、対処能力の向上を目指します。

# 准曹海上自衛隊 研修実施



自衛隊中央病院最先任上級曹長(准陸尉 犬飼 耕)は、令和元年六月十九日(水)から二十日(木)の間、海上自衛隊横須賀基地において、衛生学校、衛生教導隊、関東補給処用賀支処合同で、准曹四十名による海上自衛隊研修を実施しました。

護衛艦「きりしま」医務室、潜水医学実験隊及び自衛隊横須賀病院等研修の他、自衛隊の懇談を通じて、海上自衛隊の任務、特性及び衛生科隊員の活動状況について相互理解を深めました。

↑自衛隊横須賀病院隊員と、参加隊員による意見交換会

# 優秀隊員等紹介

入校間の活躍及び善行により学校長並びに部外機関より表彰された、中央病院隊員を紹介いたします。

看護部第二看護課 齋藤 茉穂三陸尉は、衛生学校で実施された第九八期幹部初級課程「看護官」において優秀な成績により衛生学校長賞を授与されました。

また、診療科救急室 佐々 瑠花一陸尉は電車内での人命救助により、JR東海株式会社より感謝状と記念品を授与されました。

## 衛生学校長賞



看護部第2看護課 齋藤 茉穂3陸尉

## 善行隊員



診療科救急室 佐々 瑠花1陸尉

# 中病 So You だより

So You だより

自衛隊中央病院曹友会(会長 健康管理課 一陸曹 留盛 希)は、地域への貢献と広報を目的とし、八月三日(土)中目黒夏祭り『阿波踊り』に参加しました。初心者が多い中、令和の時代に新しい風を届けたという思いもあり、女踊りの復活、新しい振り付けの考案などにも挑みました。練習時間が限られており本番が近づくにつれ不安になりましたが、当日の通し稽古で驚くほどの集中力を発揮し、無事に仕上げる事ができました。当日十八時の気温は三十二度!お祭りは暑いほど盛り上がり度とあって、練習以上に力強く熱気のある踊りを披露する事ができました。

観客からは、「自衛隊さん、カッコいい」などの声援を受け、参加した隊員の方が元気を頂きました。



↑復活した女踊りと力強い男踊りを披露する中病職員

# 保健管理センター便り

〔保健相談班〕

## 健康ハートの日

毎年八月一日は、「八一〇(ハート)」と読み取れることから、日本心臓財団が語呂合わせで「**健康ハートの日**」と定めています。夏の間に心と体を冬に備えるという目的もあります。

心臓病は単に加齢によるものだけではなく、生活習慣の影響を受けていることも多くみられます。そのため、世代や年齢を問わず心臓病予防に取り組むことが大切です。

## 健康ハート10ヵ条

- 1 血圧とコレステロールを正常に。(太りすぎ、糖尿病には注意して)
- 2 脂肪の摂取は、植物性を中心に。
- 3 食塩は調理の工夫で、無理なく減塩。(1日、6g未満を目標に)
- 4 食品は、栄養バランスを考えて。(1日、30食品を目標に)
- 5 食事の量は、運動量とのバランスで。甘いものには要注意。
- 6 つとめて歩き、適度な運動。
- 7 ストレスは、工夫をこらして上手に発散。
- 8 お酒の量は、自分のペースでほどほどに。
- 9 タバコは吸わない。頑固に禁煙。
- 10 定期検診忘れずに。(毎年一度は健康診断)



## 座る時間を短めに

さて、日本人は座っている時間が長い(四〇〜六四歳の日本人の一日平均総座位時間は八〜九時間)と言われています。座っている時間が長いと**第二の心臓の活動停止状態**となり、血流が停滞することになり、血管が詰まることにつながります。職場でも三〇分から一時間まで一度は立ち上がる、座ったままでもできる運動を行うなど、身体を動かす機会を作ってみましょう。

どんなときでも休み無く働いている心臓をいたわり、いつもの心臓を元気に過ごしましょう!

